



街をみんなで“nijiirō”に
その種を届けるニュースレター

にじのたね 4

多様な性のあり方を知る

にじいろ協働事業通信 Vol.4 2019.3.20



1.「にじいろスピーカー派遣」 2.「にじのひろば」 3.「男女共同参画推進せんだいフォーラム2018」(11月18日) 4.「にじいろキャンパス SENDAI」メンバー

nijiirō news

多様な協働の場を作った一年でした

- ①にじいろスピーカー派遣
仙台市職員を対象に、多様な性に関する講座を実施しました。
- ②ニュースレター・にじのたね
年4回制作し、仙台市の施設などで配布しました。
- ③コミュニティスペース・にじのひろば
7月から月1回開催し、参加者同士で交流しました。
- ④啓発イベント・せんだいレインボーDay
当事者によるトーク、映画上映などを通して、多様な性に触れられるイベントとして開催しました。
- ⑤男女共同参画推進せんだいフォーラム2018に参加
「多様な性とともにつく」と題して、映画上映、講演会、シンポジウムを実施しました。

… contents …

<nijiirō news>

多様な協働の場を作った一年でした

<nijiirō interview>

にじのひろば座談会
「多様な性とともにつくっていくこと」
～にじいろキャンパス SENDAIの
活動をふり返って～



「せんだいレインボーDay」7月7日、8日に開催し、560名の来場がありました





niji special

《にじのひろば座談会》多様な性とともに暮らしていこう ～にじいろキャンパスSENDAIの活動をふりかえりながら～



2月24日の「にじのひろば」は18名も来場いただきました。その中で行った座談会の様子をお伝えします。

「にじいろキャンパスSENDAI」「にじのひろば」ボランティアや参加者の広がり

小浜:東北HIVコミュニケーションズの代表をしております小浜です。にじいろ協働事業は、仙台市の市民協働事業提案制度で採択された事業で、東北HIVコミュニケーションズと仙台市、市民が協働して推進しています。イベント「せんだいレインボーDay」の実行委員という形で協働グループ「にじいろキャンパスSENDAI」が始まって以来、徐々に仲間が増え、性的マイノリティ当事者はもちろん高校生の親子の皆さんまで様々な人が参加してくれています。最初はこんなに参加してくれるなんて想定していなかったんです。なぜ参加しようと思ったのか教えてください。



「OUT IN JAPAN500人展」壁一面に当事者のポートレートが飾られました(7月「せんだいレインボーDay」)

かなえ:「せんだいレインボーDay」のボランティアリーダーでもあった小野寺真さんが娘の学校で講演をして下さったのが出会いでした。多様な性について考えようという内容でしたが、本当に感銘を受けまして…。私たちにも何かやれることはないかと考えていたら実行委員のお話を頂き、娘と一緒に参加させて頂きました。

小浜:娘さんも強力なボランティアでした。「せんだいレインボーDay」では、ステージでしっかりしたメッセージをもらったりしました。ほかのメンバーもきっかけを教えてください。

こくま:大学でLGBTサークルに関わって以来、地元仙台の動向は気になっていました。仙台に戻ってきた頃に協働事業の話を目にして、「せんだいレインボーDay」は前日、当日とボランティアをさせて頂きました。

しらとり:大学でLGBTの研究をした時、皆さんと出会いました。お手伝いなどをさせて頂くうちに協働事業が始まり、できることがあるならぜひ参加したいと思いました。

うちだ:もともと当事者の居場所作りを長くしてしました。にじいろ協働事業でも居場所作りをすると聞いてお役に立てるかもと思い、「にじのひろば」のお手伝いをさせて頂いています。

松本:仙台市の職員として平成29年にLGBT関連の担当になったのが最初です。今では「にじいろキャンパスSENDAI」の活動が楽しくなっちゃって、一緒に盛り上がっています。

小浜:「にじのひろば」も少しずつ参加者が増えていきます。来て下さったきっかけを教えてください。



当事者でありアーティストの清貴さんがステージを繰り広げた「清貴×We Are One Choirコンサート」(7月「せんだいレインボーDay」)

かおり:大和町であった映画祭の時、隣の席の方から誘われたことがきっかけです。どんな人が来ているのかが興味があり参加しました。

さいとう:大学で講演を聞いたことがきっかけでにじいろ協働事業に興味を持ちましたが、なかなか勇気が出なくて、やっと参加しました。

小浜:「にじのたね」を見てもらったり、関わる人とのつながりで伝わったり、様々な形で広がっている実感があります。今日もこんなにたくさんの方が参加して頂いて、本当にうれしいです。

「せんだいレインボーDay」や「男女共同参画推進せんだいフォーラム2018」に参加して感じたこと

小浜:考えていたよりずっと訴求力のあるイベントになった7月の「せんだいレインボーDay」。560名の方が来場してくれました。また、秋の「男女共同参画推進せんだいフォーラム2018」では「多様な性とともに育つ」と題して上映会とシンポジウムも行いました。

しらとり:「せんだいレインボーDay」は、OUT IN JAPANの写真が壁一面に並んだり、清貴さんのコンサートも盛り上がって、印象に残った場面がたくさんありました。制服の学生さんも来ていて、このようなイベントで繋がる人たちもいるのだと思いました。僕は栗原市でも活動しているので、にじいろ協働事業の活動でヒントをもらって、栗原で実践する、という感じの一年でした。

かなえ:「せんだいレインボーDay」では、若いボランティアたちが柔軟に活動している姿を見てすごいなと思いました。

もっといろいろな話を聞いたら、この子たちの未来はさらに開かれるのではないかと感じ、PTA活動の一環で小浜さんに講演に来てもらいました。生徒たちが「アライ」のバッジがカッコいいとつけてくれたという話も聞き、本当にうれしかったです。秋のシンポジウムでは、遠藤まめたさんの講演での「知らない人権は守れない」という言葉がすごく刺さりました。今年は「知る」ために心も体も動かしました。はじめは、相手の方を傷つけてしまうのではないかとびく





「にじいろキャンパスSENDAI」メンバーはイベントの会場づくりや受付などでも活躍(7月「せんだいレインボーDay」)

びくしていましたが、柔軟に活動する若者たちの姿や、イベントを皆でやり遂げた達成感を通し、自分の大切な人たちという時と全く変わらないと思いました。間違っていたら、ごめんね、どうすれば良かった？ってひとつひとつ重ねていくことが大切なのだと教えてもらい、本当に参加して良かったです。

小浜:こちらこそです。皆さんと日常的な繋がりが持てて、一緒に怒ってくれたり、考えてくれたりすることを経験でき、本当に心強いです。

こぐま:若い方たちが、気負いなく関わってくれることは新鮮でした。たぶん、当事者、非当事者という感覚はなくて、身近な問題だよねということを感じているのかなと感じました。

かなえ:その人らしさを大切にできる空間にしていると、自分もだいにしてもらっている感じがして、私も私らしくしていいと思えるよね、って娘と話します。「多様性って楽しいよね」って。



LGBTの若者たちを支援する遠藤まめたさんの講演(11月「男女共同参画推進せんだいフォーラム2018」)

多様な性とともに暮らしていくこと

小浜:「多様な性とともに暮らしていくこと」と聞いてどんなことを感じますか？

かおり:幼稚園くらいから性別について今のような気持ちを抱いて、長いこと揺れながら暮らしてきましたが、ここ10年くらい空気が変わったことを肌で感じます。「にじのひろば」に参加して思うのは、若い方が多いなあということ。それと女性も多いようですが、女性は器が大きいですね。男性社会では悪いことと感じやすいようです。私の場合は会社の人達にオープンにしたら、意外とウケが良かった。良いとかダメとかでなく、ありのままの自分を表現したい。皆にも「ダメなことじゃないよ、一緒に来てみたら？」と伝えていけたらいいなと思います。

小浜:セクシュアリティが多様だという前提の場があり、一方でそうじゃない一般社会があり、一般社会の中にも大切に思える空間があったりして、それぞれの場で頑張ろうと思っておられるとい

うことですね？

かおり:時代が本当に良い方向に進んでいると感じます。ずっとびくびくして歩いてたけれども、周りが柔らかくなってきた。自分の意識も変わったので、前向きに考えられています。

小浜:仙台がこんな街になればいいな、というのはありますか？

しらとり:自分らしくていいという情報が伝わって欲しいと感じます。知る機会がないと当事者も適切なカミングアウトができないし、当事者じゃない人はカミングアウトされても分からない。男とは女とはとか、笑いものにしていけないなどという空気が続き、それがLGBTの情報になってしまうことを避けたい。誰でも情報が得られることが理想で、そのために学校で伝わるようにできればと考えています。

小浜:映画「カラコエの花」ではまさに、学校の中の中もややした空気が描かれていました。いろんな人が孤立せずに話せて、分からないことは学んでいければいいんだという雰囲気を感じますね。

かおり:今すぐは難しいと思うのですが、マイノリティ、マジョリティなどの区別がなくなる世界が良いと思います。区別されることでモヤモヤしてしまうことが多いですね。

小浜:そうですね。ひとりひとりを理解できることは、境がなくなるということなのではないかと、お話を聞いていて思いました。

多様な協働の場をつくる多様な性とともにある街

小浜:にじいろ協働事業は、市職員研修などを行う「にじいろスピーカー派遣」を中核事業と位置づけていました。

松本:仙台市、特に市役所にとっても大きな一年だったと思います。2020年の東京オリンピックに向けて注目されていたり、様々な方からお問い合わせがあったり、そのような空気があって良い流れで進んでいるので、絶やさずにこのまま走っていければいいと思っています。

小浜:市役所の事情もあり市民が考えている通りには進まないこともあるわけで、やきもきすることが多いのも事実です。しかし、にじいろ協働事業を通して、様々な事情を超えて呼びかけに応えてくれた部署があり、ちゃんと声が届いた実感がありました。市民のみなさんと作り上げたイベントや、このニュースレターで組織としての仙台市役所に伝えられたことも多かったと思います。市民、当事者、市役所、それぞれの強みを持ち寄り、「多様な協働の場」を作ることができた一年だったと感じます。「多様な性とともに暮らすまちづくり」に向けて、大きな一歩を踏めたのではないのでしょうか。これからもにじいろの街を目指し、多くの皆さんと活動を続けていけたら嬉しいです。



仙台市職員の皆さんに、基礎知識や生活の困りごとの事例などをお伝えしました(「にじいろスピーカー派遣」)



nijiinfo information

『にじいろ協働事業は第2期に入ります』

平成30年度展開してきたにじいろ協働事業。2年目の事業実施についても採択され、継続して「にじいろのまちづくり」を進めていきます。

第2期のテーマは「教育」です。

せんだいレインボーDayや「多様な性とともにつつま」シンポジウムでは、市民のみなさんの教育分野への関心が非常に高いことがわかりました。学校への「にじいろスピーカー派遣」、「多様な性と子どもの課題」に関するセミナー、「せんだいレインボーDay」での高校生を含む若い世代の市民との協働など、「教育」にフォーカスを当てた事業を展開できればと考えます。

様々な局面で、市民のみなさんとの協働が必要になります。ぜひ、協働チーム「にじいろキャンパスSENDAI」に市民ボランティアとして参加してください。



にじいろキャンパスSENDAI
ボランティアの応募は
こちらから♪

<https://sendai-nijiinfo.org/collaboration/volunteer/>



ボランティア募集

- イベントを一緒にやってみたい!
- 活動を通して友達を作りたい!
- 多様な性についていろいろ知りたい!

…そんな仲間を募集しています。世代やセクシュアリティは問いません。どんな方も参加できます。ぜひ気軽に遊びに来て下さい。



多様な性のあり方の理解と課題の可視化について 多様な協働の場を創出する事業 ～にじいろ協働事業～

市民の一人ひとりが「多様な性」を自分事としてとらえられることを目的として「にじのたね」「にじのひろば」「にじいろスピーカー派遣」と「せんだいレインボーDay」の4つの事業を展開しています。東北HIVコミュニケーションズ、市民有志、仙台市が「にじいろキャンパスSENDAI」を構成して推進します。

にじいろキャンパスSENDAI

(東北HIVコミュニケーションズ、性的マイノリティもそうじゃない人も含む市民有志、仙台市で構成)

事務局 〒983-0836 仙台市宮城野区幸町4-7-2
みやぎのいのちと人権リソースセンター内
東北HIVコミュニケーションズ
TEL/FAX 022-298-8532
[E-MAIL] office@sendai-nijiinfo.org
[HP] <http://sendai-nijiinfo.org>



座談会を通して感じたのは「多様な性はきっと豊かなまちを作る」ということ。複雑な自分を伝えることに悩むよりも、その人のありのままを承認し合う方が心地良い。当事者、非当事者に関わらず同じように考えているはずだと思います。互いの違いを認め合う、暮らしやすいまちを皆で作っていききたいですね。(編集部)

●ご意見、ご感想、質問などお寄せください●
にじいろキャンパス SENDAI / にじのたね係

発行 にじいろキャンパスSENDAI
発行日 2019年3月20日
デザイン・編集 トト、ライティング
発行部数 2000部
配布場所 市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗
市内外の男女共同参画センター